

日本医学会分科会活動報告

一般社団法人日本認知症学会
理事長 岩坪 威

- I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。
 - a. 特に学術的に重要と考えられるもの
アルツハイマー病治療薬の創出を目標として、基盤となる診断技術の実用化、臨床データ収集を図り、治験体制を整備することを目的とする「J-ADNI 研究」に、学会の支援のもとで多数の学会員が参加し、成果とりまとめ論文が 2018 年に刊行され、データベースが国際的に活用された (Iwatsubo T., et al. Japanese and North American Alzheimer's Disease Neuroimaging Initiative studies: harmonization for international trials. *Alzheimers Dementia* 14:1077-1087, 2018)
 - b. 当該領域における国際的な役割
米国アルツハイマー病協会や CEO initiative などの主要な国際的認知症研究促進・啓発団体や National Institute of Aging 等と連携し、認知症研究学術団体として本邦を代表する国際活動を活発に行ってきた。
 - c. 活動からもたらされる社会的な意義
認知症性疾患の予防・治療と認知症をもつ人との共生の実現は 21 世紀社会最大の課題であり、当学会は、関係する多数の学会中最も中核となる学術団体として、認知症をめぐる諸問題の解決に向けて、社会に対し多大な貢献をなしている。
 - d. 学会運営上留意している点
認知症をめぐる学術的課題に対して、当学会には基礎・臨床・社会医学、ならびに神経内科、精神科、老年内科、脳神経外科等極めて幅広い分野の専門家・学会が参加しているため、多様な学会構成員ならびに関係者間の融和と連携に留意している。認知症を持つ当事者の意志と意見も特に重視している。
- II. 日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載してください。

認知症医療研究に関与する日本神経学会、日本老年精神医学会、日本精神神経学会、日本老年医学会などの関連分科会と緊密に連携し、認知症診療ガイドラインをはじめとする各種のガイドラインの策定と運用を行っている。